

石山っ子

那加第一小学校

学校だより

令和2年2月3日

No. 10

「いいね！」の喜びや感動の共有を！！

今年に入ってから、各務原市内の小中学校でも風邪やインフルエンザが流行っております。本校においても、まだ収束には至っていない状況ですので、皆様くれぐれも健康管理にご留意ください。

さて、昨年の大みそかにNHKの紅白歌合戦を観ていたところ、かねてから私が気に入っていた歌を竹内まりやさんが熱唱しました。題名は「いのちの歌」です。この熱唱に聴きほれているうちに、ぜひこの歌を子どもたちに紹介したいという思いが強くなってきました。早速、正月早々その楽譜を手に入れて、自宅で歌の練習をしていました。そして、その成果を先月15日の「那加一っ子宣言」集会の場で、恥ずかしながらも発表しました。

この歌は、今から12年前、NHKの連続テレビ小説『だんだん』の中で挿入歌として双子姉妹のマナカナさんが歌っていた歌です。初めて聴いた時から、「いい曲だなあ」と感じていました。ちょうどその頃、マナカナさんが私の自宅近くの中学校へやって来ると聞きつけ、家族全員でそろって出かけて行きました。清楚な雰囲気の中で、とても透き通った歌声を響かせてくれる2人のデュオを聴きながら、私は一度でファンになってしまいました。その勢いで2人のCDも買い、当時家で何度も繰り返しこの曲を聴いていました。その歌を、紅白歌合戦という場で久しぶりに聴いたものですから、私の感動もひとしおでした。

実は、この歌を子どもたちに紹介した日の放課後、本校のある職員からこんな言葉をかけられました。「校長先生、私も紅白歌合戦を観ていて、あの歌を聴きながら主人と一緒に感動に浸っていました。すごくいい歌ですね。先生一人だけで歌うのはもったいないくらいですよ。できれば、私もあの場で歌いたかったです！」私は、この職員からもらった「いいね！」という反応に望外の喜びを感じたのです。紅白歌合戦という場面を共にしながら、同じような感動を共有できたことに対する喜びです。こういう感動の共有は、私たちの生活に潤いを与えたり、明日への活力を奮い立たせてくれたりするものです。

前号でも触れたように、今年はオリンピック・パラリンピックイヤーです。私たちは、この祭典に出場する選手たちの活躍のみならず、惜しくも出場がかなわなかった人たちの無念さや挫折感、あるいはこの祭典を陰で支える人たちの苦労や工夫など様々なドラマに出会うことだろうと思います。そして、そういう人たちのたゆまぬ努力や工夫の中から数々の感動が生まれてくることなのでしょう。そういう時、できるだけ多くの人たちと「いいね！」の驚きや喜びを交換できるとよいのではないのでしょうか。今年は、この「いいね！」のやり取りがたくさんできるよいチャンスです。オリンピック・パラリンピックに関わる様々な人たちの営みや生き様から学んだことや味わった感動は、子供たちだけでなく私たち大人にも大きな夢や希望、勇気を与えてくれることなのでしょう。また、私たちが大きな夢や希望を抱くことによって、私たちの「心の豊かさ」もさらに深まっていくだろうと考えています。

<校長 兼松 直人>